

原 著

統合失調症入院患者の唾液分泌に及ぼす因子の解析

—分泌量と服薬・病態との関連性について—

村田 尚道¹⁾ 稲本 淳子²⁾ 石川健太郎¹⁾ 大岡 貴史¹⁾ 内海 明美¹⁾
弘中 祥司¹⁾ 鶴本 明久³⁾ 木内 祐二⁴⁾ 杉原 直樹⁵⁾ 眞木 吉信⁵⁾
向井 美恵¹⁾

概要：精神障害者，特に統合失調症患者の多くは，抗精神病薬や抗コリン剤など副作用として唾液分泌を抑制する薬剤を服用しており，唾液分泌の減少，う蝕の高罹患率，口腔内細菌数の増加が指摘されている．そこで，全身状態および口腔内環境の実態調査を行い，唾液分泌に関連する因子についての分析を行った．

対象は，慢性期病棟に入院中の統合失調症患者 83 名である．唾液分泌量は，安静時・刺激唾液分泌量を測定し，分泌量の低値を示す者と示さない者の 2 群に分け，病態や服薬との関連性について検討を行った．

唾液分泌量を計測した結果，唾液分泌量の低値群は，安静時 35.8%，刺激時 81.8% であった．安静時・刺激唾液分泌量について，それぞれ減少群と非減少群に分け，精神症状の重症度，薬原性錐体外路症状の重症度，服薬量の差を検討したが，有意差は認められなかった．

唾液分泌の減少に関与する要因を検討するため，全身状態や服用薬剤などの因子について多変量解析を行ったところ，唾液分泌量の減少には抗精神病薬以外の薬剤の服用が関連していた．

統合失調症入院患者の口腔内は，安静時・刺激唾液分泌量ともに低値を示す者の割合が多く，口腔乾燥への対応の必要性が示された．また，唾液分泌を減少させる要因として，単に抗精神病薬を服用しているだけでなく，利尿作用や抗コリン作用などを有する薬剤を併用することによって唾液分泌抑制の症状が強く表れることが示唆された．

索引用語：統合失調症，唾液分泌量，精神症状，服薬状況，要因分析